

第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走

【新型コロナウイルス感染症対策に係るガイドライン】

○第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走開催の前提条件

1. 島根県において、開催日が緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置の期間に含まれていないこと。
2. 島根県又は出雲市において、開催日が独自の緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置の期間に含まれていないこと。
3. 島根県において、新型コロナウイルス感染症に関する医療体制が整っていること。
4. 競技運営に関わる審判等（学生補助員を含む）の体制が整っていること。

○新型コロナウイルス感染症予防の基本方針

1. 体調管理チェックシートの事前、事後記録
2. マスクの着用（不織布を推奨）
3. 検温の実施
4. 手指の消毒
5. 3密（密閉、密集、密接）の回避

○新型コロナウイルス感染症対策室の設置

1. 本大会における新型コロナウイルス感染症対策室を設置する。
2. 新型コロナウイルス感染症対策責任者を置く。

<新型コロナウイルス感染症対策室>

出雲市市民文化部文化スポーツ課内 出雲駅伝事務局 0853-21-2341

<感染症対策責任者>

永井 純 公益社団法人日本学生陸上競技連合 03-5304-5542

○感染者、濃厚接触者、感染疑い者の参加・従事の可否

1. 感染者 [10日前 (9/30) 以降]

部員（選手、主務等）および監督、コーチ等が、PCR検査・抗原検査において新型コロナウイルスの「陽性」反応があった場合、もしくは「みなし陽性」と判定された場合、陽性者となった者の出場・帯同を認めない。

※選手、チーム関係者に関わらず症状が出現した場合は、発症後に少なくとも10日経過した場合（発症日の翌日を1日目として10日目を超えた場合）、かつ薬剤を使用せずに症状が治まってから72時間経過した場合は出場を認める。無症状感染者が無症状のまま経過した場合は、陽性となった検体を採取した日から7日経過した場合（陽性となった検体採取日の翌日を1日目

として7日目が過ぎた場合)は出場を認める。

2. 濃厚接触者 [1週間前(10/3)以降]

部員(選手、主務等)および監督、コーチ等が濃厚接触を疑われる場合は、当該者の出場・帯同を認めない。

なお、上記の濃厚接触者は、自宅待機・健康観察の方法について保健所等の指示に従うことと、部員(選手、主務等)および監督、コーチ等の大会出場者との接触を禁止することが望ましい。

3. 感染疑い者 [10日前(9/30)以降]

部員(選手、主務等)および監督、コーチ等が、感染疑い症状(発熱、咳、咽頭痛、息切れ、全身倦怠感、下痢、味覚障害等)を発症した場合には、インフルエンザ等の新型コロナウイルス感染症以外の感染症リスクも考慮し、当該者の出場・帯同を認めない。ただし、次の2つの要件を両方満たしている場合には、出場を認めることとする。

- A. 感染疑い症状の発症後から少なくとも8日以上が経過している(発症日を0日として8日間とする)。
- B. 薬剤を服用していない状態で解熱後および症状(※)消失後、少なくとも3日以上経過している(解熱日・症状消失日を0日として3日間とする)。

○感染症発生時の対応

1. 感染症対策室は、参加者から発症の報告を受けた場合の対応方針を関係自治体の保健衛生部局と事前に検討する。
2. 大会終了後、1週間の健康観察期間に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、競技者本人かチーム代表者が感染対策室に対して速やかに連絡する。
3. 感染症が出た場合は、関係自治体の保健衛生部局に連絡し、指示に従って協力する。
4. 感染症対策室は、保健所や関係機関と連携しながら、感染者の公表、その内容を決定する。情報の公表にあたっては、感染者に対して不当な差別及び偏見が生じないように個人情報の保護に留意する。

○競技者およびチーム関係者の対応事項

1. 競技者およびチーム関係者は大会1週間前から体調管理チェックシートに記入し、体調管理に努めること。
2. 競技者、チーム関係者は会場到着時に検温を実施する。また大会当日は、朝宿舎で検温を実施し、37.5℃以上と確認され、体調に異常がある場合には大会本部の医師の指示に従う。
3. 体調に異常が生じた競技者がいたときは、その場で検温を実施し、大会本部の医師の指示に従う。
4. 大会終了後1週間の体調管理・検温を実施する。
5. 競技中(ウォーミングアップおよびクーリングダウンを含む)を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。また手指の消毒の徹底を呼び掛ける。
6. 会場では、唾や痰を吐くことは極力行わない。

7. 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の導入が望ましい。

Android 用



iOS(iPhone)用



○大会関係者の対応事項

1. 感染予防対策を目的に個人情報を取得する必要があり、健康に関する情報は要配慮個人情報にあたるため、選手、チーム関係者等大会関係者から必ず同意を取る。
2. 大会前・後1週間の体調管理チェックシートを記入し、体調管理に努める。

○観戦者への対応

1. 沿道での応援について、マスクを着用すること、また声を出しての応援は控え、人と人との距離を確保することなど感染防止対策の協力を呼び掛ける。
2. スタート、ゴール及び各中継所付近では、一部、関係者以外立入禁止エリアを設け、3密状態の発生を防ぐ。
3. スタート、ゴール、各中継所および沿道での3密状態が発生したり、発生しそうになったりした場合は、プラカード等を持った警備員や大会スタッフが解消を促す。
4. 開会式、表彰式、閉会式は、入口にて検温を実施する。検温時37.5℃以上と確認され、体調に異常がある場合は入場をお断りする。また、一般観覧自由とするが、今後の感染状況によっては一般観覧の入場を制限する場合がある。

○会場における感染予防策

1. マスク着用の徹底
 - ①大会役員、補助員、警備員などすべてのスタッフに常時マスクの着用を義務付ける。
 - ②選手には、競技中(ウォーミングアップ、クールダウンを含む)以外のマスク着用を義務付ける。
 - ③チーム関係者、報道関係者についても会場および周辺でのマスク着用を義務付ける。
 - ④競技者と接触する可能性があるスタッフは、フェイスガード、手袋などを着用する。
2. フィジカルディスタンスの確保
 - ①会場では、可能な限り他人との距離を確保し、必要以上の会話を避ける。
 - ②たすき、健康に関する申告書の受け渡しなど、対面での対応が必要な場所にはパーティションを設置する。
3. 手指の消毒の徹底
 - ①選手の待機場所、大会役員や運営スタッフが滞留する場所には可能な限りアルコール等の手指消毒剤を用意する。
 - ②布タオルは使用せず、使い捨てペーパータオルを用意する。

※アルコール消毒液、ペーパータオル等の消耗品は、スタートや中継所などに主催者が準備。マスクは参加者各自で用意する。ただし、主催者は緊急時に備えて予備のマスクを準備する。

4. スタート、中継所の仮設テント

- ①競技者や付き添い部員の距離が近くなりすぎないように呼びかける。使用した競技者が長く滞留しないよう促す。
- ②使用者が触れる場所については、こまめに消毒する。

5. ごみの処理

競技会場内にはごみ箱を設置しないため、各自持ち帰るようにする。特に、鼻水、唾液などが付着したごみは、ビニール袋などに入れて口をしぼったうえで確実に持ち帰るよう徹底する。

6. その他

- ①喫煙所は設置しない。
- ②受付や監督会議等で使用する物品、運行車両の室内はこまめに消毒する。

○レースの管理

1. スタート前

選手控所用テントでは、他の選手、スタッフと密になることを避けるように呼び掛ける。

2. レース中

- ①レース中の給水は原則として小サイズのペットボトルを使用する。飲料を取り扱う者は事前の手洗いや消毒など衛生管理を徹底する。
- ②ペットボトルなどの回収を考慮して給水所にトングを用意する。

3. フィニッシュ後

- ①フィニッシュ後は速やかに選手をメディカルチェック用テントへ移動するよう誘導する。
- ②競技中、フィニッシュ後に倒れこんだ競技者の対応は、防護体制を整えたスタッフで対応する。
- ③レース終了後は、手指のアルコール消毒を促す。

○移動

1. バス内ではマスクを着用し、大声を出しての会話は控える。

○宿泊

宿泊時、以下の点に留意すること。

1. 食事会場をチーム専用とすることができるか検討する。
2. チームが使用する部屋は事前に消毒、換気するよう宿泊施設へ依頼する。
3. 自室以外ではマスクを着用する。
4. エレベーターのスイッチや階段の手すりなど、不特定多数が触れる箇所については可能な限り素手で触れないようにする。素手で触れた場合は、できるだけ速やかに手洗いかアルコールで手指消毒を行う。

○食事

1. 選手の席は可能な限り 1～2m を確保し、向かい合わせの配席はしないようにする。
2. 十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらすようにする。
3. 宿泊施設以外で飲食をする場合、多人数での飲食は避ける。また、利用した店と一緒に飲食したメンバーを各個人でメモするなどして覚えておく。なお、外食においては、自治体が定めたルールがある場合は、それを遵守する。

○ミーティング

チームでミーティングを行う際には、以下の点に留意すること。

1. 対面にて実施する場合、マスクを着用し、部屋の換気に留意する。
2. 監督、コーチ、選手は、可能な限り 1～2m を確保して着席する。
3. 対面でのミーティングを制限し、限られた人数またはオンライン会議を利用する。

○当日の医療体制

1. 医師らが各中継所に待機する。体調等に異常があった場合には医師の指示に従う。
2. 当日の感染者発生に備え、フェイスガード、手袋、マスクなどを準備する。

○メディア・取材への対応

1. 主催者の対応事項

主催者は報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項（開催 1 週間前の体調管理・検温の義務と体調管理チェックシートの提出、および終了後 1 週間の体調管理・検温を行うなど）などを記載し、取材の事前申請を受け付ける。

2. 取材人数について

人数を設定し、事前に報道関係各社に通知する。

3. 取材方法について

①報道受付では、事前に記載してきた取材申請者から個人別の体調管理チェックシートを受け取り、本人確認後、IDカード、ビブスを交付する。

②インタビューは、選手とのフィジカルディスタンスを確保し接触を防ぐ。

4. 取材・撮影エリア

設定した撮影エリア内でのフィジカルディスタンスは、カメラマン同士で調整するよう促す。

5. 報道取材者への依頼

①取材時はマスクを着用する。

②大会開催 1 週間前の体調管理・検温と体調管理チェックシートの提出、大会終了後 1 週間の体調管理・検温を実施する。

③会場内では手指の消毒や咳エチケットなどを心がける。

④取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する。

○個人情報の取得について

1. 競技運営目的以外に感染症予防対策目的に、大会に関係するすべての人の各種情報（氏名、連絡先、年齢、健康状態等）の個人情報を別途定める体調管理チェックシートにより取得する。

なお、大会前、後1週間の体調管理チェックシートについては、記入後各チームや個人で保管する。

ただし、大会当日の来場者に新型コロナウイルス感染症をはじめ、体調不良等が生じた場合には、主催者がチェックシートの提出を求めることがある。

2. 万一、感染者が発生した場合、主催者は保健所・医療機関などの第三者へ対し、情報提供することがある。（主催者として個人名や所属名等の公表は行わない。）